

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターおりぼ			
○保護者評価実施期間	2024年 11月 29日		～	2024年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	2024年 11月 29日		～	2024年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	2024年 11月 29日		～	2024年 12月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	7	(回答数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者を含め、保育所や学校からも信頼をもって受け入れられているが、対応時間が月2回と少ないことに不満がある学校関係者や保護者が見られる。	クラス運営に差しさわりのないよう、対象児との関り方に配慮している。また教員等のメンタルヘルス的な困りごとや悩みごとに寄り添っている。また対応時間が少ないことで困っている保護者や学校関係者が見られるが、訪問支援の意義を丁寧に説明しながら理解を促している。	1人の子ども困りごとは全ての子どもの困りごとと考え、一人ひとりに対して丁寧な支援を心がけるとともに、その対応そのものが地域の支援の底上げにつながるよう、つながりを大切にする。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援に対応する職員が少ない。	保育所や学校のなかに、対象児との関り方に困っている時の一時的な対応・支援として考えられている場合がある。	訪問支援とは、主に対象児を取り巻く支援方法や環境調整を行うため、対象児の家庭や学校等と橋渡しをするサービスである。「困っているのにすぐに来てもらえない」という教員等の意向が見られるが、本来の主旨を丁寧に伝え、インクルーシブな環境を協働して整えていくことが必要である。
2			
3			